



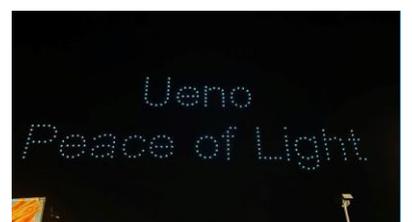
【公民学連携組織】

上野版エリアプラットフォーム (検討案)

2026.1月版

上野地区で勃興する公共空間等の利活用

上野地区では近年多様な公共空間を舞台として、様々な担い手による地域の魅力づくりや愛着醸成、居心地の良い空間づくりに向けた活動が活発に行われています。



現在の活動エリアを飛び越えて、街との接点を持つ場があると望ましい。

日常の楽しみが生まれることが重要であり、単に人が集まる以外の「魅力」を作ることが今後のまちに必要。

上野は地域に美術館や藝大などすごい資源がたくさんあるのに、繋がりが薄いのはもったいない。

5丁目区有地等活用可能性のある公共空間が使われていないのはもったいない。

若者に向けてエリアのSNS発信に注力したいが、高齢化や担い手不足等で実施できていない。

上野エリアでは今後、「孤立の解消(つなぐ)」「文化・伝統・地域経済(発信)」「サステナビリティ」の3つを重点的に取り組んでいきたい。

人々にとって「自分ごとの場所」があること重要。そのためには顔見知りや友達を作ることや行きつけのお店を作る等「ドットを打つ」ことが必要。

街ぐるみでアーティストを育み、応援するような仕組みを上野地区が持ち、最終的には世界で活躍するアーティストが生まれると理想的。

イベントの質の言語化ができるといい。その一環として「デザイン」に注力する戦略があり得るのではないかな。

諸々の手続きの円滑化のために公民学連携組織の必要性を指摘してきた。実際の組成には誰でも参加できる組織と、かつフラットな体制が望ましい。

藝大生と活動をしているが、地域との接点を持ってない点が課題となっている。上野の商店の一角など、藝大の近くに発表や展示ができる場が持てるとよい。

他地域では、特定の商店街の意見が強かったり、一方的な行政主導の場合もある。フラットに議論できる場が必要だと感じていた。

公民学連携組織の運営資金確保のために労力のかかる大規模イベントに頼る構造は避けるべき。

「共」の組織に参画し、学外含めた様々な情報が共有されることで、今後のプロジェクトにつながる「最初の一歩目」の出会いが増えると思う。

上野地区にて藝大生とつながりを持って活動ができないかと考えているが、そのコネクションがないことが課題。

台東区で活躍する人はそれぞれの「個」は強いものの、連携ができていないと感じている。その関係づくりを「取材」を通してできないかと試行している。

上野を盛り上げる活動をしたいが、居住者にきちんと情報が届けられているかが分からない。また、上野らしさを前面に押し出した活動をしたい。

アメ横における来客数や空室状況等の不動産状況はコロナ禍前を上回っているほど好調な状態が訪れている。

東上野では近年空き地や駐車場が増加していることや、外国人オーナーのホテル増加等が顕著でまちの様相が大きく変わっている感覚がある。

上野版エリアプラットフォームとは？

上野版エリアプラットフォームは活躍する様々な活動が萌芽する上野地区においてその活動の担い手を応援・支援するという考えの下、多様な資源・人とつながり「上野ならではの」を創出する共創基盤となることを目指しています。 ※上野地区まちづくりビジョンの範囲を想定

大切にしたい考え方

活動する上での大切にしたい考え方です。

こちらについては次年度以降に開かれた場等で公・民・学 様々な視点から意見交換して決定します。

PURPOSE

存在意義

VALUE

存在意義

VISON

どんな上野・シーンを目指すか

MISSION

何をするか

上野で湧き上がる“やってみたい”を応援する

内発的な熱意、芽を見つけ、応援し、つながりの輪を広げていく

ワクワクする・はぐくむ・つながる・ひらく・愛着

ふらっと来て、居たくなる・関わりたくなる上野

日常に溶け込み、関わりたくなる“ひらかれた関係のまち”を目指す

つながり、挑戦が生まれる場をつくる

上野版エリアプラットフォームができあがることで

今ある地域資源を最大限活用することで日常の課題や”もったいない“部分を切り口として地域固有の魅力の創出します。エリアプラットフォームでは”上野のこれからの未来“を作っていく組織として活動を進めていきます。

地域の悩みが共有され、賛同者や新たな担い手が見つかるかも



【御徒町二丁目町会 盆踊り大会】

高齢化・担い手不足に課題を抱える町会活動に対して、多摩屋はスタッフを動員することで地域イベントに貢献

上野で学ぶ学生がフラットに地域とつながり、作品・才能・個性の表現のできる場の提供



【藝を育むまち同好会】

上野界隈のアートブランドイメージの構築を目指し、まちぐるみで若手アーティストとのつながりを創出に取り組む

エリアプラットフォームが補助金等の受け皿となることによるアート活動等の拡大



ARTS COUNCIL TOKYO

【アーツカウンシル東京】

東京都が主導するアートに対する補助金支援の枠組みである一方、組織としての法人格が必要等様々な与条件がある

公共空間等を活用したチャレンジ/表現活動/界限性のPR



【桜日和のしほず和めり広場】

道路空間を活用し、しほず界隈に今も息づく和文化を発信し、界隈の魅力の再発見を目指すチャレンジ

ニッチな情報をアーカイブ化/ライター募集を通じた関係人口の増加



【QRUWA/岡崎市】

地域プレイヤーの特集記事や、その日のイベント情報など地域の情報に特化したローカルメディアを作成

【出典】QRUWA戦略HP/岡崎市

まち×杜の様々な人が開かれた場に集まり新たなプロジェクトや繋がりが生まれる



【カマコン】

参加者からのアイデア抽出や、プレストを通してのプロジェクトの実装や活動者同士の交流を促す場づくりを行う

【出典】カマコンホームページ

上野版エリアプラットフォームの応援・支援メニューの例

開かれた場でアイデアと人のマッチング

アイデア・アイデアの卵を持っている方×実行者×支援者をつなげるマッチングの場
「私もしたい」、「できるかも」と体感する場

【効果】
秘めた思いが実現できる場
アイデア止まりにせず、“やりたい”から“できた”へ

資機材の共有化

イス・テーブルなどの資機材を分散配置・リスト化することで、地域全体で融通し合える仕組み化

【効果】
個人・団体の初期負担を減らす

パブリックスペースの活用支援

チャレンジ・実験できるパブリックスペースを事前に確保して、やりたいことを募る
“場所”と“人”のマッチング

【効果】
“誰が使う”から“何をする”への転換
チャレンジ等のハードルを下げる

企業×地域のマッチング

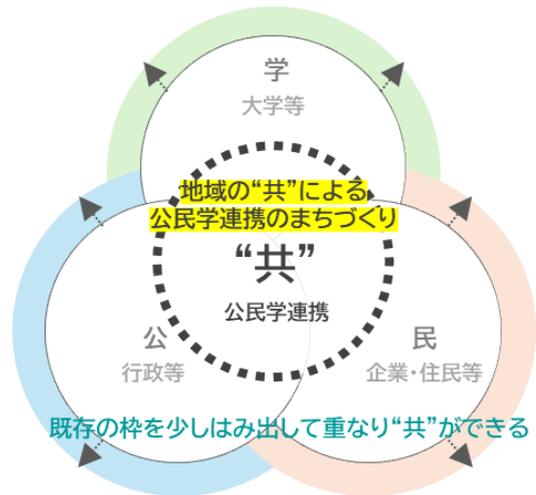
企業で行っている社会貢献活動の上野地区での展開時の窓口となり、イベント連携の際には場所、連携先のマッチング(差配)を行う

【効果】
上野を舞台とした企業の地域貢献活動の展開

上野版エリアプラットフォームの組織の考え方

上野版エリアプラットフォームは、“公”(行政等)、“民”(企業・住民等)、“学”(大学等)それぞれが既存の活動領域を少しずつはみだし、重なりしろとしてできる**“共”(公民学連携)**の体制を構築することで、これまでの上野地区の組織では実現が難しかった課題解決や魅力創出に挑戦します。

- 公**
【行政】
 - ・地域の日常的な生の声を聞く場になる
 - ・開かれたまちづくりのきっかけに
 - ・単発支援ではない持続可能なまちづくり
- 民**
【企業等】
 - ・まちづくりを通じたCSR貢献
 - ・公も含めた人脈活用
 - ・共にまちの方向性を決めることによる、ビジネス機会の創出、的確な地域ニーズ把握
- 学**
【大学等】
 - ・学生の社会経験の場
 - ・上野を「学びと実践のフィールド」に展開
 - ・地域とのつながり強化により、学生のチャレンジ・リサーチ・表現の場の創出

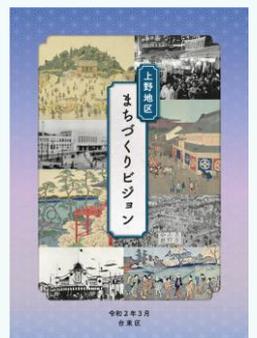


行政・民間・大学等の強みと地域の特徴を活かした中長期的な地域運営を実施する

【上野地区における公民学連携組織検討の経緯】

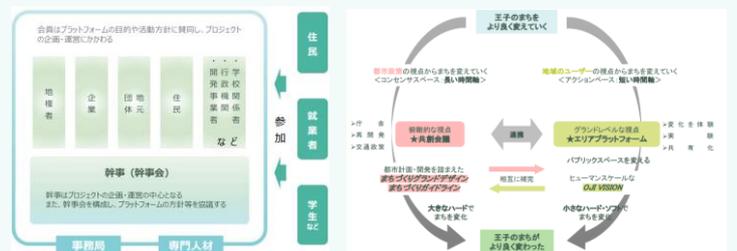
上野地区では令和2年に策定した「上野地区まちづくりビジョン」の実現に向け、台東区が設置する会議体にて公共空間の在り方や杜まちの情報発信の一元化、まちづくり活動の進捗管理・報告などを行ってまいりました。

一方で、その会議のみでは回数が限定されていることもあり、事業の推進力や継続性・実効性の担保などに課題がありました。そこで、上野地区のポテンシャルを最大限活かすまちづくりの体制として、公民学が連携した実行力のある組織づくりを検討しています。



【公民学連携組織の事例と活動内容】 王子駅周辺エリアプラットフォーム/北区

北区では庁舎移転を契機とした新たな道路や広場の整備、民間開発の誘導における新たな拠点形成の動きが本格化していることを踏まえ、「王寺駅周辺まちづくりガイドライン」の具体化に向けた推進体制としてエリアプラットフォームが構築されました。



(出典)王子駅周辺エリアプラットフォーム/東京都北区

上野版エリアプラットフォームが担う機能(応援方法)

エリアプラットフォームでは地域のやってみたいの応援方法として、7つの機能を担うことを掲げています。中でも令和8年度は地域の横ぐしを刺し、一体感をもった活動を行う共創基盤として、フラットにつながる場の構築に向けた「知る・繋がる」に注力します。

エリアプラットフォームの基盤づくりとなる活動

令和8年度注力



知る・繋がる

活動の根幹となる
開かれた場

・地域の横ぐしを刺し、一体感を持った活動をする基盤としてフラットにつながり、横連携につなげていく

エリアプラットフォームの代表的な活動

初動期注力



募る

オープンなサロン運営

- ・上野にまつわる多様な人が活動・アイデアを紹介・プレゼンを行う
- ・小さな魅力を発見し、地域で挑戦したい人を応援する仕組みを作る

初動期注力



使う

公共空間等マネジメント

- ・上野地区の使われていない余白の空間を活用することで地域の居場所づくりや魅力創出を行う

初動期注力



稼ぐ

エリマネ広告事業

- ・エリアプラットフォームの活動を支えるための原資としてエリマネ広告を導入し、持続的なまちづくりを目指す



届ける

一元的情報発信

- ・バラバラと発信されている上野地区の情報を一元化し、地域内の回遊性向上やリピーターの増加につなげる



評価する

まちづくり活動効果検証

- ・学生と連携したりサーチラボ機能を持つことで、社会実験やイベント等の取り組みを評価し、今後のまちづくりの戦略策定等に役立てる



伴走する

地域に根差した人材醸成

- ・新たな担い手などにとって良き相談相手としてサポートするとともに、次世代の担い手に対してノウハウの継承等を行う

組織体制が整うまでの初動期では、「知る・繋がる」「募る」「稼ぐ」「伴走する」を実現できるための検討に注力します。その後、各機能を拡大させつつ、情報発信や地域の評価などの機能を持つことで地域の活動を応援・支援する体制を整えていきます。

初動期(～R10頃)

中期

長期



知る・繋がる

コミュニティの形成・拡大

コミュニティを他の取組へ展開

外部コミュニティとの連携・拡大



募る

プロジェクトの創出

プロジェクトの実現

プロジェクトの定着



使う

活用実験・社会実験を通じて将来的な制度活用を模索

日常的な維持管理も含めた活用・運用体制の構築

実態に即した空間再編の提案



稼ぐ

エリマネ広告事業の事業化

エリアFM等エリア事業の拡大

蓄積したノウハウを活かした収益事業の展開



届ける

準備・基盤構築
ローカルメディア

デジタル版社町連携
カレンダーの実現

一元的な情報発信プラットフォームの構築



評価する

準備・基盤構築

イベント・社会実験等のデータ共創基盤の構築

得られたデータをエリアマーケティングに展開



伴走する

新たな担い手の発見
ひとつなぎ

新たな担い手との伴走

担い手から
ローカルマネージャーへ

今の上野ってどんなまち？

【来街者】

50万人/1日

上野駅鉄道3社の乗降客数(R4)

→ 各線上位10位前後の乗降客数で、
近年さらに増加傾向にある

【人材】

3,700人/年

上野周辺の学校への入学者数(R6)

→ 新しい学生が毎年数千人おり、
上野地区との関わりが生まれている

【回遊性】

1:1:1

杜・まち・杜まちへの来街者割合(H30)

→ 上野への来街者の内、3分の2は片方のエリア
のみの訪問であり情報発信による拡大余地あり

【リピート率】

88%

都内在住者の内、4回以上の来訪率(R5)

→ 台東区内の他地域と比べて、4回目以上の
来訪リピート率が突出している

【余白空間】

6,000m²

区有地・地下道・パンダ橋合計面積

→ 上野駅・御徒町駅周辺の余白を活用し、
新たな魅力づくり期待される

【フラッグ】

約200基

フラッグ設置可能な街路灯数(R7.8時点)

→ 上野駅周辺では面的にフラッグが
広がっており、更なる活用の余地がある

【地価】

20%上昇

2020-2025地価上昇率

→ ベースの地価が高い上野地区においても、
直近5年で20%の地価が上昇傾向にある

【イベント稼働率】

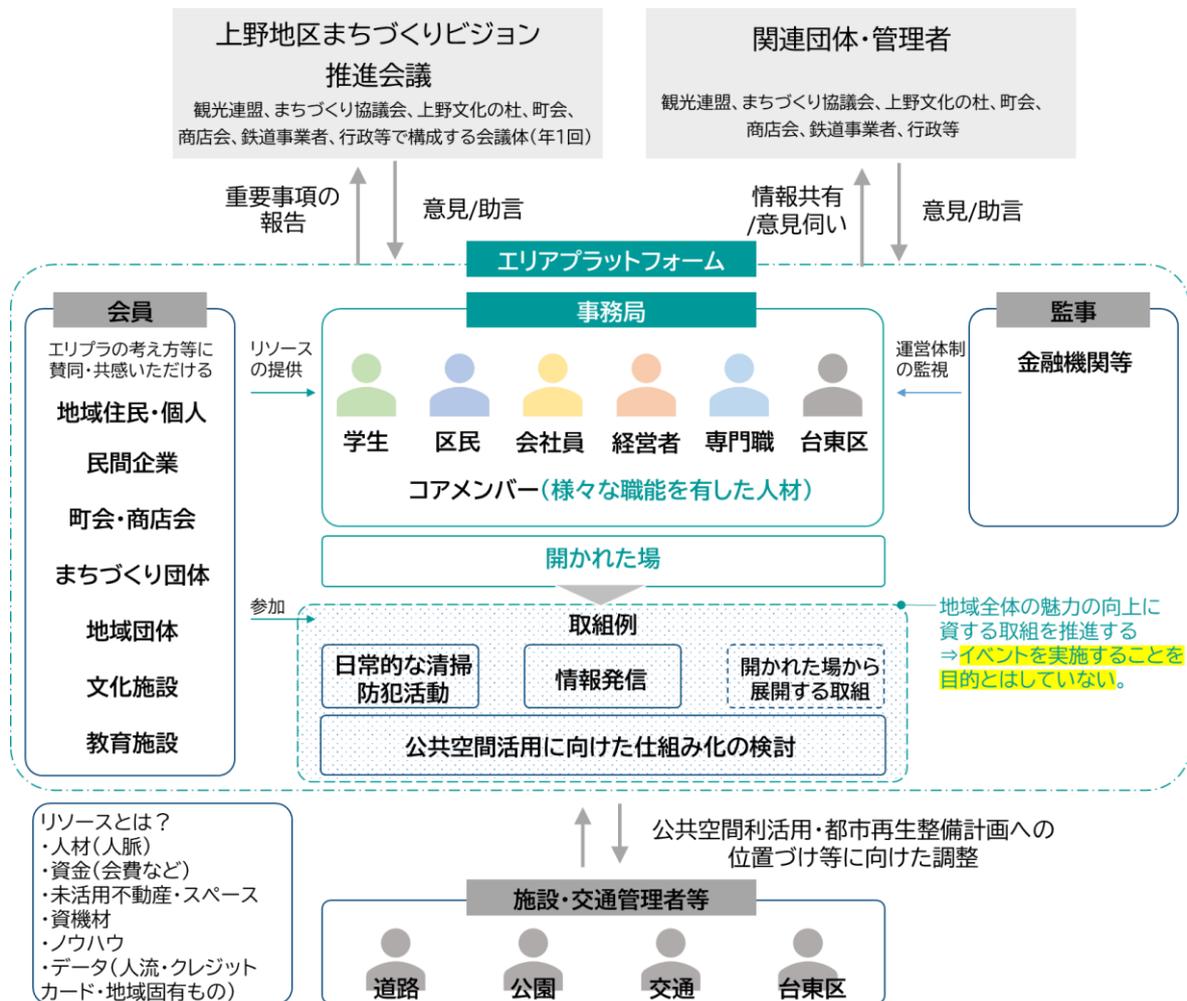
77% (休日は97%)

パンダ広場稼働率

→ パンダ広場の稼働率は高い数値で推移して
いるものの、新規参入には課題がある

組織体制

組織体制としては様々な職能・人脈を有する方々から構成することを想定しています。台東区も事務局として参加しつつも、地域のみならずと一緒に組織を運営することを目指しています。地域の既存団体とも適宜連携を取り、エリアプラットフォームに賛同いただける方や実際に企画・行動をしたい方を中心に事務局を構成いたします。



今後のスケジュールと組織形態のステップ

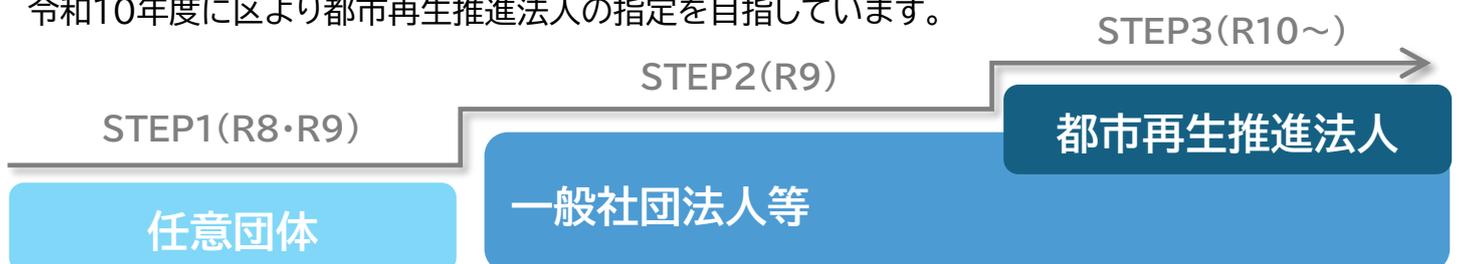
◆スケジュールのイメージ

これまでのヒアリングを通じて、エリアプラットフォームや上野のまちづくりに興味、関心、共感をしてくれる方々から、エリアプラットフォームの立上げに向けた仮事務局を令和8年3月ごろを目途に立ち上げます。その後コアメンバーを中心とし、開かれた場の運用をしつつ、立上げを目指します。

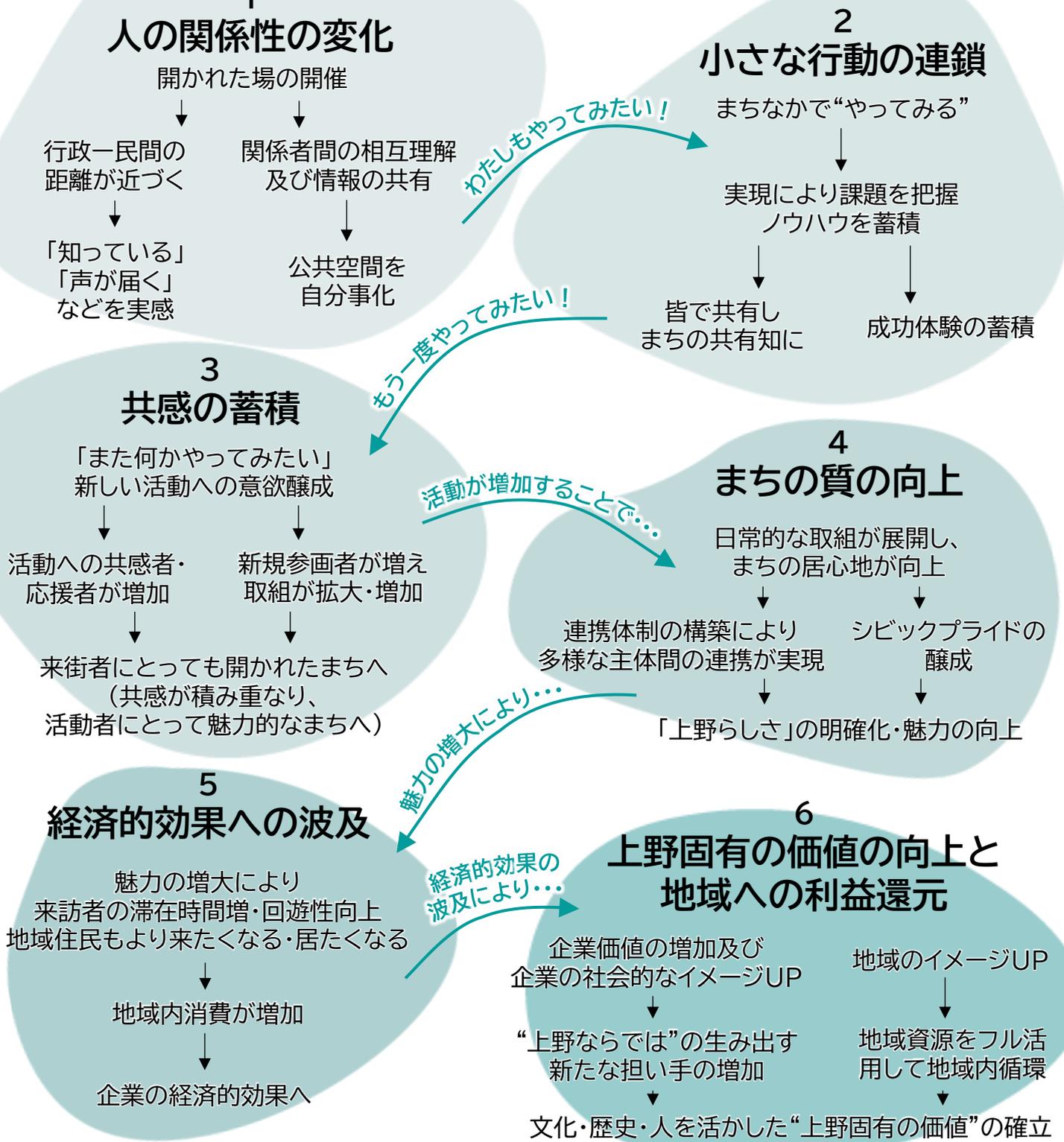


◆組織体制のステップ

エリアプラットフォームの組織形態としては、令和8年度・9年度は任意団体として活動しながら、令和9年度に法人化を目指しています。それまでにエリアプラットフォームとしての実績を重ねることで、令和10年度に区より都市再生推進法人の指定を目指しています。



短期的に効果が顕れるわけではないが、
共感の広がりや小さな取組・成功体験が蓄積されることで、
積みあげ型のまちづくりを目指す



【都市再生推進法人の事例】 秋葉原タウンマネジメント株式会社

都市再生推進法人とは、都市再生特別措置法に基づき、地域のまちづくりを担う法人として、市町村が指定するものです。市町村は、まちづくりの新たな担い手として行政の補完的機能を担うる団体を指定できます。秋葉原TMOでは地域の特性(資源)を活かした公益的事業を行い、その収益をまちづくり事業に再投資しています。「官」でも「民」でもない、「公益的株式会社」として活動をしています。



(出典)秋葉原タウンマネジメント株式会社ホームページ

組織の収支の考え方

組織の持続的な活動に向け、活動に必要な収入源についても検討をしていきます。通常の組織では会費・負担金での整理が一般的ですが、エリマネ広告や公共空間の運営など自主事業にも取り組むことを検討しています。

収益源・資金調達の方法

※現時点で特定の場所・施設を示すものではありません。

会費・負担金

- エリアプラットフォームに所属する法人・個人・団体等から徴収した会費や負担金をエリアプラットフォームの活動費として充当する

エリマネ広告収益

- 上野地区の既存のフラッグ等を活用し、第三者広告を展開することで広告掲出料金をエリアプラットフォームの活動費として充当する

公共空間等の運営

- 公共空間等の1次使用者となり日常管理等を行い、イベント等で2次使用者に貸し出すことで使用料を活動費に充当する

自主事業を行い持続的な運営をするために「都市再生推進法人」を目指します

- ▶ 都市再生推進法人とはまちづくりの新たな担い手として行政の補完的機能を担う団体として市区町村が指定をする団体です
- ▶ 都市再生推進法人に指定されることにより、公共空間での収益活動を行うことができる「都市利便増進協定」の締結が可能となります

【都市利便増進協定の事例】一般社団法人TCCM/愛知県豊田市

愛知県豊田市の中心市街地活性化に向けて、駅周辺のエリアマネジメントを行っている。

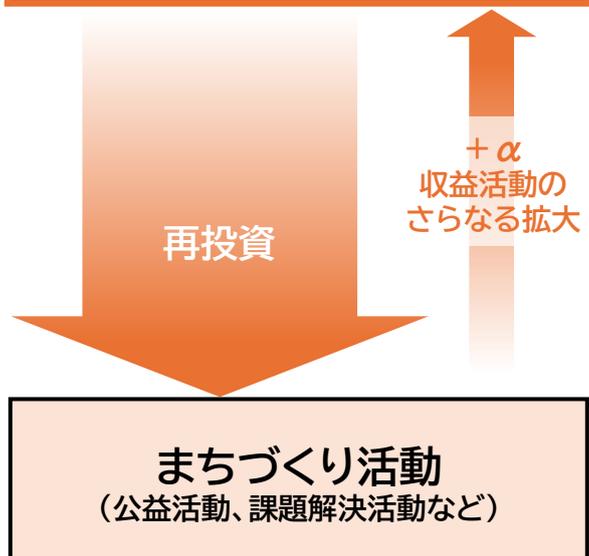
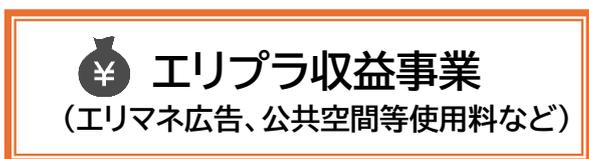
収益事業として、都市公園・美術館の庭園などの公共的区間を活用した公有地の活用や、道路上での広告展開を行い、まちづくり活動に還元する取組を実施している。



(出典)官民連携まちづくりポータルサイト/国土交通省

エリアプラットフォームで得られた収益については、まちづくり活動に再投資することで上野地区の魅力の更なる向上を目指します。具体的には、萌芽する活動への金銭的な支援や、地域としての日常のお困りごとの解決に資する活動に対する費用とする予定です。

得られた収益の活用の考え方



事業収益をまちづくり活動へ再投資

再投資先 例1) 萌芽する活動の支援による魅力づくり



5丁目区有地は使われていなくてももったいない。地域の魅力を発信する場として活用することができないか…

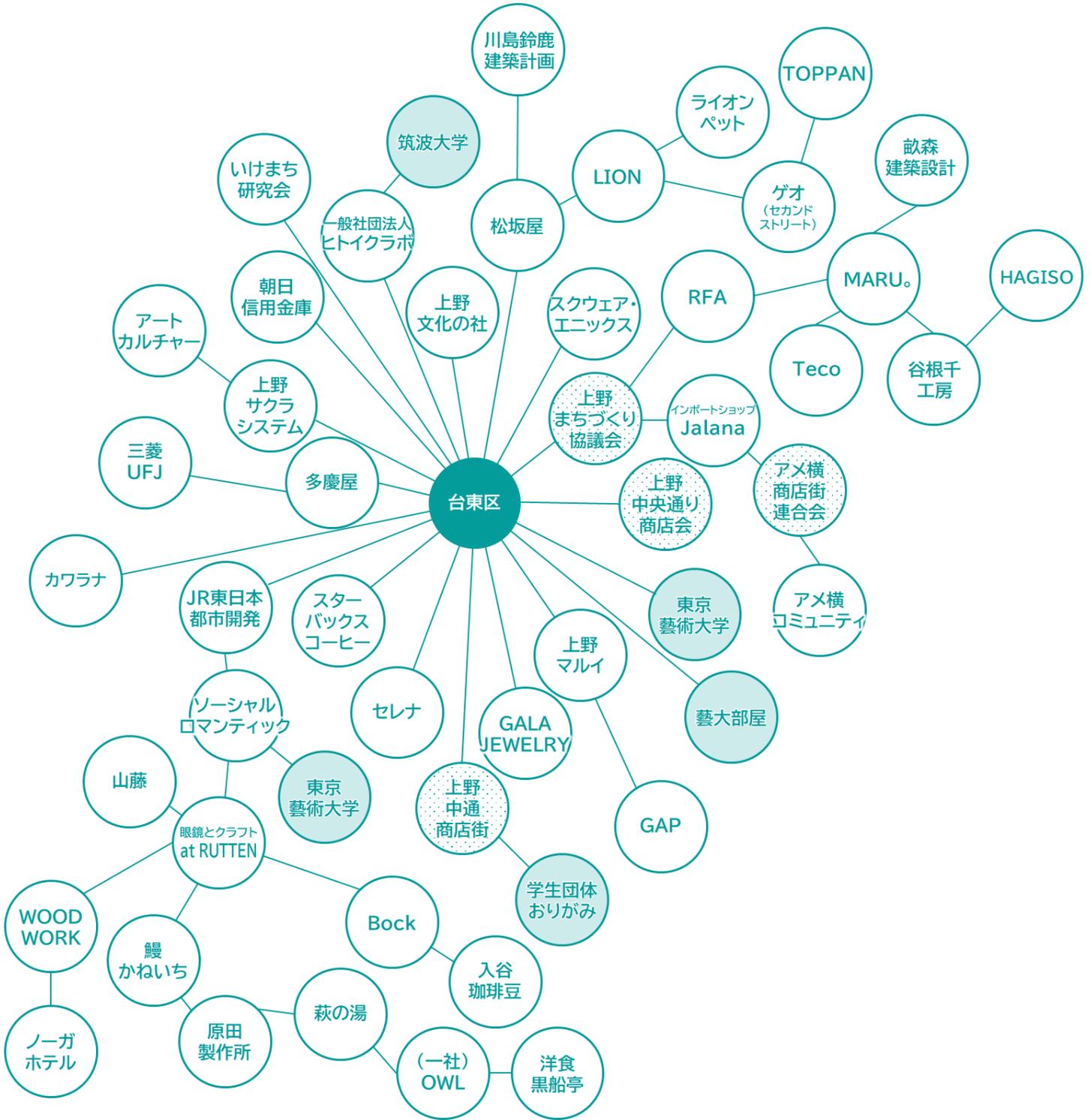
再投資先 例2) 日常的な地域課題の解決
(防犯・清掃等の面的課題)



上野6丁目ではごみの多さが見るに堪えない。ゴミや吸い殻のポイ捨てが多いため、清掃活動に取り組んでいる

エリアプラットフォーム構築に向けたこれまでの関係づくり

上野版エリアプラットフォームの構築に向け、台東区地域整備第一課では地域の活動者の方々にヒアリングを行ってまいりました。ヒアリングについては、数珠繋ぎ方式でエリアプラットフォームの考え方に賛同いただけそうな方をご紹介します。今後もヒアリングでの対話を通して共感の輪を広げて、エリアプラットフォーム構築に向けた共創の関係構築を目指します。



※今度ヒアリング予定の方々も含まれます。

台東区都市づくり部
地域整備第一課